

事業番号	0	2	1
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	地区組織活動事業				担当部	健康福祉部					
事業期間	昭和63年度以前 ~ 令和2年度以降				担当課	保健センター					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	06	展開方向	1							
予算区分	一般会計	款	04 衛生費	項	01	目	04	大	03	中	03

2. 実施状況

○ 目的
居住する地域全体の健康状況や健康に関する支援が必要な方に目を向け、地域の人々が健康で明るい生活ができるよう、地域の実情に応じた健康づくりに努めることができるボランティアを育成・支援します。
また、健康づくりボランティアが実施する、健康づくり活動を支援します。
地域で健康づくりを展開することにより、健康寿命の延伸を図ります。

○ 対象
市民、保健連絡員(H30 247人)、食生活改善推進員(H30 32人)、健康づくりボランティア(7団体)

○ 手段
・保健連絡員養成講座:地域で健康づくりの啓発活動等ができるボランティアを育成(H30 延べ402人)。
・保健連絡員が地域で健康づくり活動を展開 (H30 地区健康展6地区1657人参加、ウォーキング大会3地区447人参加等)
・保健連絡員による赤ちゃん訪問:保健連絡員が地域で生まれた赤ちゃんを訪問し、お祝い品を手渡し、相談窓口の情報提供をしました。また、母親の育児を認め、地域で見守りました。(H30 948件)
・食生活改善推進員(ヘルスマート)養成講座:地域で食に関する知識の普及啓発をするボランティアを育成(H30 54人)
・食生活改善推進員活動を展開:広報で減塩レシピを掲載(H30 6回)、中学校2校で調理実習、親子料理教室1回
・健康づくりボランティア団体(7団体)が市民に対して、健康づくりの支援をする。

○ 効果
保健連絡員等の健康づくりボランティアが企画実施する活動において、自分たちが住む地域の健康に寄与する。

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	8,446	7,045	6,740	6,468
			国・県支出金	千円	510	340	490	428
			その他	千円	0	0	0	0
		計(A)	千円	8,956	7,385	7,230	6,896	
	対前年比	%	-	82.5%	97.9%	95.4%		
	(当初)予算額	千円	10,913	8,451	8,393	8,405	8,432	
人件費	正職員	人	1	1	1	1		
	正職員(平均賃金)	千円	7,486	7,486	7,486	7,486		
	その他職員	人	0.20	0.20	0.20	0.20		
	その他職員(時給×時間)	千円	238	243	244	248		
	計(B)	千円	7,724	7,729	7,730	7,734		
事業費合計(C=A+B)		千円	16,680	15,114	14,960	14,630		
指標	成果指標	健康展参加者数	目標	-	-	-	-	
			実績	1,387	1,461	1,377	1,657	
	活動指標	健康展実施回数	目標	-	-	-	-	
			実績	6	6	6	6	
		赤ちゃん訪問件数	目標	-	-	-	-	
			実績	1,045	1,133	1,055	948	
	◎事業費	受益者数(a) (赤ちゃん訪問+健康展+食生活改善推進員行事等)	人	5,234	5,684	5,139	4,713	
		受益者あたり事業費 (b=C/a)	円	3,187	2,660	2,912	3,105	

	改善点は見られない	○	改善点が若干見られる		大いに改善すべき
診断結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業費 平成27年度の事業費が多いのは、保健連絡員30周年記念大会を実施したためである。その他の年度は、通常の保健連絡員活動、食生活改善推進員活動等である。事業費の増減は、活動に要する消耗品の購入や学習会等の講師謝礼、地区健康展で実施する健康チェック運営委託費用が年度によって違うためである。 ○ 成果 成果指標の健康展参加者数は、増加傾向である。地区健康展は地区の保健連絡員が地区のために開催をしており、保健連絡員の口コミやチラシ配布等の啓発活動も影響している。赤ちゃん訪問件数の主な変動要因は、出生数の減少によるものである。 ○ 受益者事業費 受益者数は、地区健康展、保健連絡員、赤ちゃん訪問の数を受益者数としているが、保健連絡員が年に1回作成している保健連絡員だよりは区民に回覧をされていたり、食生活改善推進員の健康レシピは広報年6回掲載されていることから、受益者は市民全体と考えることもできる。受益者事業費に大きな変動はない。 				

4. 総合評価

事業の方向性 削減額・対象	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの				
	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節	節
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健連絡員や食生活改善推進員などの健康づくりボランティアの活動は、健康な地域づくりに寄与するものである。地域の住民に働きかけ、地域にあった活動が実施できていることから、この事業は必要であると考えられる。 ○ 会議準備や会議の記録作成、送付等、職員は効率的に事務を進めていく必要がある。 ○ 職員のみでは、健康づくりの周知啓発は十分にできないことから、ボランティアの力を借りて、健康づくりを推進するこの事業は必要である。 					